

令和8年度ヨコハマ市民まち普請事業

1次コンテスト 整備提案集

日時：令和8年7月11日（土）10:30～16:20

会場：横浜市役所アトリウム



事務局 横浜市都市整備局 地域まちづくり課
横浜市住宅供給公社
認定NPO法人 市民セクター横浜

■目次■

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは	1
2. 審査員名簿、委員紹介	2
3. まちづくりコーディネーター紹介	7
4. 令和8年度のスケジュール	9
5. 令和8年度ヨコハマ市民まち普請事業1次コンテスト	
(1) 1次コンテストプログラム	10
(2) 1次コンテスト審査基準	11
(3) 1次コンテストの投票方法・選考方法	11
6. 1次コンテスト提案一覧	12
(1) ヨコハマ小麦部ネクストステージ	13
(2) 食でつながるコミュニティ拠点を作る会	19
(3) 桜ヶ丘 とさかのか (toSAKAAnoKA)	25
(4) 空ちゃ別館づくり隊	31
(5) さわやか港南	37

1. ヨコハマ市民まち普請事業とは

「ヨコハマ市民まち普請事業」では、市民のみなさんが主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設（ハード）整備を伴うまちづくりに対して横浜市が支援・助成を行うことで、地域に合ったまちづくりが実現することを目指しています。

市民のみなさんによるアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、整備への労力提供や整備後の施設の維持管理、活用・運営などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広まることで、横浜の魅力を一層向上させていくことを目的としています。令和5年度から「子育てプラス」として、次世代を共に育む地域づくりの推進のため、選考件数や支援体制を拡充しています！

※地域まちづくり・・・身近な地域の魅力づくりや課題解決に向けた取組のことです。

※まち普請・・・「普請（ふしん）」は「普く請う（あまねくこう）」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。
「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足度を高めることに繋がっていきます。

「まち普請」には、市民のみなさんに身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

<支援内容>

● 1次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 30万円を限度に活動助成金を交付します。
（市の予算の範囲内で助成します。）
- 活動助成金の対象は、提案をブラッシュアップすることを目的にした活動です。
- 対象経費は、主にまちづくりコーディネーター（まちづくりの専門家）など技術面での協力者への謝金や広報活動費、用紙等事務用品費等です。
- 提案内容の整理等をアドバイスしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストに向けて提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課職員が支援します。

● 2次コンテストを通過した提案グループへの支援

- 50万～500万円を限度に整備助成金を交付します。
（市の予算の範囲内で助成します。）
- 対象経費は、設計費、工事費、工事監理費、活動経費です。
- 整備内容の整理や関係機関との協議・調整などを、整備が完了するまで地域まちづくり課職員が支援します。

2. 審査員名簿

(ヨコハマ市民まち普請事業部会 委員名簿)

	氏 名	現 職
審査員長 (部会長)	かわはら すすむ 川原 晋	東京都立大学都市環境学部教授 (都市デザイン、市民事業、観光まちづくり)
審査員 (部会委員)	うえまつ まみこ 植松 満美子	松ヶ丘自治会会長 (まちづくり、市民活動)
	おがわ ともりの 小川 智紀	認定 NPO 法人 ST スポット横浜 理事長 (市民協働、アート)
	くにひろ じゅんこ 國 廣 純子	武蔵野美術大学建築学科教授 (都市計画、まちづくり、市街地再生)
	ごとう ちかこ 後藤 智香子	東京都市大学環境学部准教授 (まちづくり、住環境、こども環境)
	とりうみ ちえこ 鳥海 知恵子	市民委員 (公募)
	ひご きみこ 肥後 貴美子	市民委員 (公募)
	まつむら まさはる 松村 正治	NPO 法人よこはま里山研究所理事・事務局長 (市民協働、環境社会学)

(五十音順、敬称略)



●川原 晋（かわはら すすむ）

東京都立大学都市環境学部教授

専門は観光まちづくり、都市・地域デザイン。観光地再生、まちづくり市民事業、市民参加まちづくり、公民連携による公共空間活用などの理論と実践に取り組んでいます。

前職では、都市計画コンサルタントや建築設計者として、横浜市や区の都市計画マスタープランや市民利用施設の検討ワークショップ等の業務や、福祉施設等の設計に携わりました。

藤沢市都市景観アドバイザー、八王子市景観審議会委員、横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会委員（横浜・人・まち・デザイン賞）、地元小学校の PTA 会長などを経験。趣味はガーデニング。



●植松 満美子（うえまつ まみこ）

松ヶ丘自治会会長

青少年指導員、主任児童委員を務め、子ども達や学校、子育て支援などに関わる様々な地域活動に携わってきました。私の住む松ヶ丘地区は、横浜駅にほど近い丘陵地。国道 1 号線から一步入ると急な坂道や細い道が多く、通学、通勤、買い物に行くのにも坂の上り下りは欠かせません。また、指定

されている地域防災拠点や広域避難場所への避難も、高齢の方や障害をお持ちの方には難しいことと、東日本大震災を経て痛感させられました。そこで自治会では、いつとき避難場所として自治会館の活用に思い至り、防災機能と備蓄品の充実を図るため自治会館内に防災備蓄庫を設置することを決定。これを「まち普請事業」の助成を得て平成 25 年度、完成させることが出来ました。私はこの活動に深く関わる機会を得て、その後自治会内に立ち上げた「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の活動を通して、「松ヶ丘まちづくりプラン」の策定に努め、松ヶ丘町内の防災面の強化に関わってきました。現在、松ヶ丘自治会会長を務める傍ら、地区連合自治会、地域防災拠点の運営委員会とも連携しながら、住み心地のよい地域づくりに腐心しています。



●小川 智紀（おがわ ともり）
認定 NPO 法人 ST スポット横浜 理事長

1999 年から芸術普及事業に関わり、2004 年にアート NPO である ST スポット横浜の地域連携事業立ち上げに参画しました。現在、アートの現場と学校をつなぐ横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局や、民間の芸術文化活動をサポートするヨコハマアートサイト事務局、障害者芸術文化活動普及支援事業の連携事務局を担当しています。社会福祉士、社会教育士として、芸術文化分野と教育、まちづくり、障害福祉分野の連携を模索中です。ダンスや子ども劇場、アート NPO といった分野で活動する中間支援組織で、役員もしています。

客観的で合理的な根拠を示すこと、目標を達成し課題を解決することはもちろん大事です。それ以上に、楽しい、面白い、興味深いと思えることにあふれた地域の可能性に着目しています。



●國廣 純子（くにひろ じゅんこ）
武蔵野美術大学建築学科教授
タウンマネージャー

慶応義塾大学経済学部卒業後、日本銀行調査統計局勤務。東京理科大学工二部建築学科を経て、三分一博志建築設計事務所にて犬島アートプロジェクトにて精錬所など一連の建築・ランドスケープのデザインを担当。

2010 年に拠点を北京へ移し、中国ローカルの都市計画・建築設計事務所にて国際プロジェクト責任者としてチームビルディングやプロジェクトマネジメントを経験。2013 年より、自治体の市街地でのまちづくりを公民を問わず総合的に支援する仕事として、タウンマネージャーのキャリアをスタート。青梅市では 10 年間で 130 件の開業、あきる野市では 6 年間で 50 件の開業を創出。賃貸に出されていない空き物件の面的調査や物件交渉等のスキーム構築、開業を促進する情報発信など、特定エリアの不動産市場の再起動やまちのイメージを高めるマネジメントを実践しています。



●後藤 智香子（ごとう ちかこ）
東京都市大学環境学部環境創生学科
都市環境分野准教授

東京理科大学理工学部建築学科卒業、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了、同専攻博士課程修了・博士（工学）。柏の葉アーバンデザインセンターディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教、同大学先端科学技術研究センター特任講師などを経て2023年より現職。

学生時代から、住民主体による私有地を活用したまちづくりやそれを支える制度について研究をしてきました。具体的には、世田谷区の地域共生のいえづくり支援事業制度などについて研究をし、またそのご縁で地域共生のいえの一つ、「岡さんのいえ TOMO」の運営に10年以上携わっています。また最近は、こども環境についても都市計画・まちづくりの観点から研究を進めており、特に保育園（こども施設）と地域との空間的・社会的な関わりについて研究しています。



●鳥海 知恵子（とりうみ ちえこ）
市民委員

住み開きの家庭で育つ。東日本大震災時、子育て中に出逢った仲間と「大人とこどもが一緒に考える・心をつなぐ」小さな会を立ち上げたことが地域活動の原点です。

保育士として子育て支援に携わる一方、令和元年、地域で出逢った背景や年代の違う様々な同志と「誰もひとりぼっちにしない街」を目指し、まち普請にチャレンジ！翌年「コミュニティカ

フェ icocca」をオープン。令和8年3月整備拠点の契約満了に伴い、たくさんの方の協力を得ながら自力整備で近隣に移転し icocca 第二章をスタートさせました。まち普請にチャレンジしていなければ歩めなかった面白い未来にいます。日野南小学校、日野南中学校で学校地域コーディネーターを務め、高齢化率42%超の街で様々な人と一緒に楽しく活動中。モットーは「ないなら創ろう・ないから創ろう」特例認定NPO法人 icocca ひのみなみ副理事。

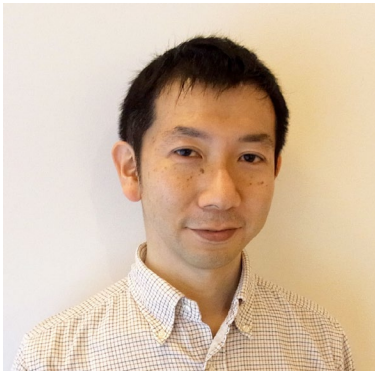


●肥後 貴美子（ひご きみこ）
市民委員

武蔵野美術大学卒、グラフィックデザイナー。30歳を目前に「エコツーリズム」と出会ったことから、環境に携わる分野に進進。日本各地・フィジー諸島でのエコツーリズム開発やビクターセンター等の展示施設に関わりながら、自然やその土地の文化、そこに生きる人の魅力を伝えることに努めています。

東日本大震災後、自ら住む地域について何も知らないことを猛省し、地域でのエネルギーやコミュニティを考え、実践する市民活動を開始しました。コミュニティ農園やエディブル・ガーデンなどを通じて、環境に負荷をかけずに豊かに暮らすヒントを模索しています。今ある地域の環境を次世代にどう残していけるか、仲間と一緒に考え、行動しています。

2025年4月から、（一社）横浜市地球温暖化対策推進協議会理事として、横浜市内の脱炭素ライフスタイルの実践にも取り組んでいます。



●松村 正治（まつむら まさはる）
NPO 法人よこはま里山研究所理事・事務局長

1999年から多摩丘陵の里山保全運動にかかわり、2005～25年にNPO 法人よこはま里山研究所（NORA）理事長。まちの近くで里山とかかわる暮らし、里山をいかす仕事づくりをすすめています。NPO 法人 Life Lab Tama 理事・事務局長・NPO 法人まちだみどりネットワーク理事など。

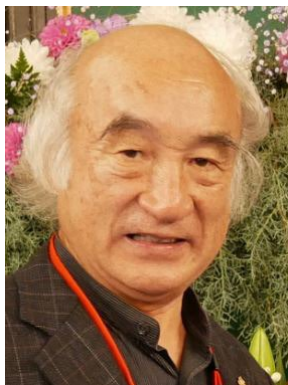
NPO での市民協働や地元町会長の経験をもとに、神奈川県ボランティア活動推進基金審査会、横浜市市民協働推進委員会などの委員も務めてきました。

2020年に大学専任教員を退職後、独立研究者へ。専門は、環境社会学、公共社会学。調査フィールドは、多摩丘陵、八重山、五島・対馬ほか。大学では、フィールド・スタディやサービス・ラーニング等の経験学習プログラムも担当しました。現在は一橋・立教・法政などの兼任講師、環境運動をテーマにした市民講座のコーディネーターなども務めています。

3. まちづくりコーディネーター紹介

ヨコハマ市民まち普請事業では、提案の検討段階から、まちづくりの専門家「まちづくりコーディネーター」による伴走支援を行っています。まち普請事業の提案をブラッシュアップしていくためには、このコーディネーターはなくてはならない存在です。

今年度、支援に入ってくださっているまちづくりコーディネーターを紹介します。



●内海 宏（うつみ ひろし）

これまでの伴走支援実績（まち普請）

熊野の森もろおかスタイル（港北区）

特定非営利法人こまちプラス（戸塚区）

NPO 法人ぐるっと緑道（都筑区） ほか

得意とする分野

地域福祉（高齢者・障がい者・子育て支援等） 防犯 水・緑・環境

歴史・文化・アート 空き家・空き地の利活用 商店街活性化

コミュニティの再生 地域の活動拠点運営 地域交通サポート事業

コーディネーターから、提案グループへひとこと

野外での新しい居場所として、多世代がお互いに関われる広場スペースの創造に期待！



●鈴木 智香子（すずき ちかこ）

これまでの伴走支援実績（まち普請）

菊名みんなのひろば（港北区）

太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション（港北区）

夢・街のナビゲート 大倉山コンシェルジュパーク（港北区） ほか

得意とする分野

地域福祉（高齢者・障がい者・子育て支援等） 水・緑・環境

空き家・空き地の利活用 アート 商店街活性化 コミュニティの再生

地域の活動拠点運営

コーディネーターから、提案グループへひとこと

このまち普請事業を通して、地域のいろいろな方々と次々とつながり、意見を聞き、どんどんと関わりを広げて、素敵な「まちづくり人」になっていただけたらと思います。



● 関口 春江（せきぐち はるえ）

これまでの専門分野に関する支援実績

えだきん×夢叶きゃらばん（都筑区）

町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト（港北区）

得意とする分野

水・緑・環境

空き家・空き地の利活用

コミュニティの再生

地域の活動拠点運営

コーディネーターから、提案グループへひとこと

みなさんの提案が形になり、そこからたくさんの笑顔が生まれる未来が楽しみです。自分たちの街を、自分たちの手で最高に面白くしていきましょう！

4. ヨコハマ市民まち普請事業 令和8年度スケジュール

整備提案の募集 R8年2月12日(木)～R8年5月29日(金)



1次コンテスト R8年7月11日(土)

本日!!



2次コンテスト対象提案の決定

現地見学会(令和7年度整備箇所) R8年8月31日(月)



2次コンテスト対象提案 活動懇談会 R8年9月12日(土)



2次コンテスト対象提案 現地視察 R8年10月26日(月)



2次コンテスト R9年1月23日(土)

整備対象提案の決定!

5. (1) 令和8年度 1次コンテストプログラム

☆ 10時30分～10時55分

- 開会
- 応援企業の紹介
- 審査員の紹介
- コンテストの進行説明

☆ 10時55分～11時45分

- 整備提案の発表等（1グループあたり6分）

☆ 11時45分～12時05分

- 審査員による提案発表を踏まえたポイント整理

☆ 12時05分～13時15分

- 休憩

☆ 13時15分～15時55分

- まちづくりコーディネーターの紹介
- 審査方法の説明
- 公開議論・質疑
- 公開投票及び結果発表
- 講評

☆ 15時55分～16時20分

- 提案グループへの事務連絡、アンケート回答
- 交流タイム

☆ 16時20分

- 閉会

※当日の進行状況により、変更する場合がありますのでご了承ください。

5. (2) 1次コンテスト審査基準

1 創意工夫

- ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ

2 意欲

- ・自ら主体となって整備の推進に取り組む意欲
- ・グループメンバーが目的を共有したうえで、持てる力を出し合い、提案の精度を高める活動に取り組む意欲

3 公共性

- ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度
- ・活動を地域に開きながら、広げる又は深める姿勢

5. (3) 1次コンテストの投票方法・選考方法

1 投票方法

提案ごとに「2票」「1票」「0票」の3段階で評価します。

2次コンテストの対象として「特に推薦する」	2票
2次コンテストの対象として「推薦する」	1票
「今後の取組に期待したい」	0票

2 選考方法

- ・ 過半数の審査員から得票したものを2次コンテストの対象提案として選考 します。
- ・ 得票数が同点の場合は、投票した委員の多い提案が上位となります。

6. 令和8年度 1次提案一覧

発表順	区	提案グループ名	整備提案名	ページ
1	都筑区	ヨコハマ小麦部ネクストステージ	みんなで育てるコミュニティ畑で多世代の居場所づくり	13
2	瀬谷区	食でつながるコミュニティ拠点を作る会	人と人をつなぐカフェ「ほっとスプリングス」	19
3	保土ケ谷区	桜ヶ丘とさかのか (toSAKAAnoKA)	途中のアトリエと静かな緑側の渦のかたち	25
4	港北区	空ちゃ別館づくり隊	若者の居場所&商店街活性化新拠点ー空ちゃ別館整備ー	31
5	港南区	さわやか港南	つながりみまもる広場	37

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	ヨコハマ小麦部ネクストステージ
グループ結成の 経緯・応募に至 った経緯	「ヨコハマ小麦部」は2017年からNPO法人I Loveつづきが福祉施設「都筑ハーベスト」の畑を手伝う形で実施してきた。2025年6月からは地元産小麦の魅力を広く伝えるとともに、人と人がつながるきっかけを作ることを目指し、I Loveつづきが新たに畑を借り、「ヨコハマ小麦部ネクストステージ」としてコミュニティ畑をスタートした。現在は、休憩場所やトイレがなく、長時間の活動ができず、「居場所」としての機能がないたため、まち普請の応募を決めた。
現在の主な活動 内容・活動実績	毎月1回土曜日に公開での種植えや収穫体験、平日は必要に応じて畑の整備作業を行っている。PR活動として、パネル展や都筑区パン祭りなどに来店し小麦を勉強するクイズや小麦の穂をつかったクラフト作りを行った。今年度は日陰を作るためのパーゴラや、雨風が凌げるミニビニールハウスをつくる予定。
提案場所	都筑区 池辺町
提案名 (25字以内)	みんなで育てるコミュニティ畑で多世代の居場所づくり
提案する施設の 概要（80字以内）	都筑区の農業専用地区で、大人から子どもまでみんなで畑を楽しめる場所にするための交流広場の整備。
具体的な整備内 容（【ハード整備】 何を整備します か。）	・バイオトイレ、洗い場、作物保管倉庫の設置 ・農機具が置いて少し雨風を凌げる小さな小屋 ・入口ゲート、案内板 ・食事や作業のためのスペース 整備費用の概算額：約500万円
活用イメージ （【ソフトの取組】 提案する施設でど のような活動を行 いますか。整備す る場所に触れて説 明してください。）	・畑の一部で「小麦づくり」（その他資料参照） 種まき、麦踏み、青々とした成長、そして収穫と、年間を通じて多世代が一緒に作業を行うことができる。 ・ハーブ、薬味、実のなる木等の畑作業 ハーブや薬味を育てることで、家庭で料理をする楽しみの一つとなったり、実の生る木を植えることで四季を感じられる場所になる。 ・畑遊び、食事会、クラフト教室などの公開イベントの実施 畑で収穫した作物を使って料理をするほか、通常自由に走り回れない畑を走り回れるようにして子どもたちに畑を楽しんでもらう。 ・ゲート、案内板により地域への活動の周知 現在幟を立てて活動をアピールしているが、地域住民へ活動内容やスケジュールを共有するものをつくる。 本提案でバイオトイレ、雨風も凌げる作業小屋等を整備することで、こどもからシニアにとって、単に農作業をするだけではなく、居心地のよい居場所となる。
提案の背景（な ぜ提案をするの	池辺町は農業専用地区で昔から農業が盛んな場所である。一方で、都筑区内には畑の良さが知れ渡っておらず、畑の担い手も不足している。そこで、他にはない畑をつくり、魅力を発信して畑を活性化していきたいと考えた。また、「シ

か、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	ニア楽農園」(60才以上から参加できる畑だが、3年間経つと希望者が多く、次の人にゆずる必要がある)を卒業した方に、これまでの経験を活かしてもらおう場を作りたいと考えた。 現在400坪の畑には近隣も含めトイレがなく、イベント時には車でトイレの場所まで参加者を送り迎えする必要がある。また、農機具を置く場所や雨風を凌げる場所がないので、小さい子どもから高齢者までが気軽に安心して参加できる畑にしていいため、整備が必要である。
目指す地域の将来像(提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか)	都筑区が誇る農業専用地区を守るため、多くの人達に畑の価値を知ってもらい、都市農業を絶やさないよう農に関心をもってもらいたい。「みんなで育てる畑」という新しい概念で農地を守るしくみをつくる。それにより、世代間の交流の活性化となり、いざというときの防災拠点にもなり、さらに農風景の継承へとつながっていく。
整備時の協働(つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	2017年の「ヨコハマ小麦部」立ち上げから一緒にやってきた「NPO法人都筑ハーベストの会」とは引き続き連携を行い、整備に協力いただく。近隣の「池辺市民の森愛護会」の方々とも連携し、竹材などを提供してもらい、交流広場の整備に活用する。池辺市民の森の会長さんには、近隣住民の方とのパイプ役をお願いする。また、「日総びゅあ株式会社」を通して、障がいのある方にも整備に協力してもらう。
運営時の協働(運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)	現在、近隣で農地運営している方から整備の仕方や、道具の使用法などを教わりながら、一緒に活動している。参加者への講習会を行ってもらうなど、アドバイザーの役割を頼む。青葉区で小麦を作っている「青葉小麦プロジェクト」から栽培に関してアドバイスをいただく。都筑区の名産を作りたいと考える個人事業主や商店、福祉施設とも連携し、小麦の商品化などもトライする。区内の子育て支援施設や放課後キッズ、小学校や幼稚園等にも呼びかけ、こどもの居場所や学びの場としても活用していく。手入れの簡単な古代小麦の栽培を「企業(特例子会社)」と連携して行う。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	個々が区画を耕す一般的な「市民農園」とは異なり、私たちの目指す農園は、みんなで育み、楽しむコミュニティ畑である。 環境に優しく、多世代が集える畑として整備を行い、ただ収穫物を手にするだけでなく、自然を楽しみ、農作物をつくる過程を楽しんだりしながら、多世代の交流が生まれる新しい居場所にしていきたい。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等注5)への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
農地の賃借人に、単なる小麦栽培に留まらず、農業体験の場として活用したい旨を説明し、その為の助成金の応募をすることも説明済み。	小麦栽培および農業体験の場としての活用について、全面的に賛成いただき、多くの方が農業に触れる機会を作るという方針について、有効的な活動として、快く承諾をいただいている。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関も含む)

次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ☒ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ☒ 第1次提案書(添付書類を含む)の内容に個人情報はありません。

ヨコハマ小麦部ネクストステージ 位置図

1 : 25,000 (縮尺)

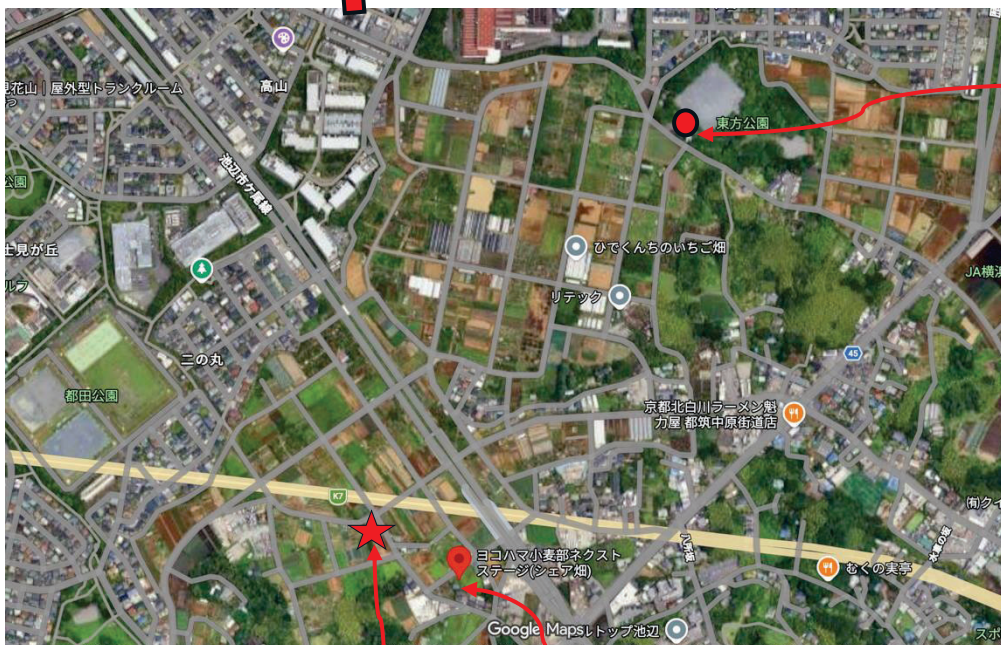
本計画で使用を予定している農地(畑)の広さ・位置について

本活動で使用を予定している農地は、横浜市都筑区池辺町に位置する農地。
面積はおおよそ1300㎡程度で、住宅地に隣接した都市型農地。
都筑ふれあいの丘駅から徒歩15分～20分(大人の徒歩で)の場所。



出典:Google Maps

↑ 都筑ふれあいの丘駅のトイレ



東方公園公衆トイレ

ヨコハマ小麦部の畑

都筑ハーベスト南畑

トイレの場所

1. 東方公園公衆トイレまで、大人の足で15分～20分程度(高低差がある)
2. 都筑ふれあいの丘駅のトイレまで大人の足で15分～20分程度(高低差がある)
3. 都筑ハーベストのバイオトイレ(徒歩5分)も作業時間があえば使わせてもらえるが、いつも利用できるわけではない。

ヨコハマ小麦部ネクストステージ 現状写真



2025年7月借りたばかりの畑のようす



2026年5月だんだんと区画整理が進む畑。
しかし休憩場所はない。



2026年5月16日畑作業に集まった参加者とスタッフ

2026年の植え付け予定図





ネクストステージ
SINCE 2025

ヨコハマ小麦部 ネクストステージ みんなの居場所整備図

- ・ バイオトイレの設置
- ・ 農機具が置けて少し雨風を凌げる小さな小屋
- ・ 洗い場の設置
- ・ 作物保管倉庫
- ・ 入口ゲート、案内板
- ・ 食事や作業のためのスペース



バイオトイレイメージ



畑の看板イメージ



小屋のイメージ



洗い場のイメージ

私たちが小麦にこだわるのは何故か？

ヨコハマ小麦部ネクストステージ

小麦畑は一年中作業があり、さまざまな楽しみ方ができます！



食の楽しみ

小麦は、小麦粉になると、パン、クッキー、ピザ皮、うどん、など形を変えて楽しみ、小麦粉として冷凍保存することで長く使えます。収穫後も料理教室や地域交流へ展開しやすく、健康づくりや生きがいがいづくりにもつながります。

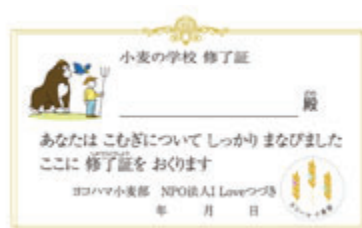


2021年頃から、こどもたちとクッキーの商品開発に取り組み、都筑区内の菓子工房で商品化されています。

作る楽しみ

小麦を使って麦のことを学ぶ「小麦の学校」。

- ・ 麦を分解して中味を知る
- ・ 小麦検定で問いに答えて勉強する



小麦でいろいろなクラフトづくりは子どもでも、高齢者でも簡単です。

小麦の穂や茎を使ったクラフト作品

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1）3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2）3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3）添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	食でつながるコミュニティ拠点を作る会
グループ結成の 経緯・応募に至 った経緯	地域の中で活動を行っている、五貫目町内会、北町町内会、マーク スプリングス自治会・壮年隊、中屋敷地域ケアプラザ、社協と協力 して、今回の応募をきっかけに拠点を作る会を結成。それぞれの団 体で活動はしているものの、拠点がなくにより、活動の手軽 さ・持続性の限界を感じ、拠点づくりを考え始めた。
現在の主な活動 内容・活動実績	拠点の開設・運営に向け、話し合いを行っている。 月2回
提案場所	瀬谷区 五貫目町
提案名 (25字以内)	人と人をつなぐカフェ「ほっとスプリングス」
提案する施設の 概要（80字以内）	食を通じて交流できる場所、シニアの配食サービス、子どもおとな食堂、フ レイル予防プログラム、生涯学習、子どもの居場所、お願い掲示板の運営、 多世代交流イベントの開催
具体的な整備内 容（【ハード整備】 何を整備します か。）	店内飲食と配食合わせて一度に60食作れるキッチン（自家製食パ ン・漬物・スイーツの調理含む）と、車いすで入れるトイレの整備 <u>整備費用の概算額：約500万円</u>
活用イメージ （【ソフトの取組】 提案する施設でど のような活動を行 いますか。整備す る場所に触れて説 明してください。）	【食事の提供】朝・昼食の提供。地元で採れた食材を活かした日替 り定食。お店に来られないシニア世帯には配食サービスを実施。 【子どもの居場所】放課後や休日に宿題を見てくれたり室内ゲーム で遊んでくれる大人が常駐し、おやつを一緒に作ったりもできる 【子どもおとな食堂】孤食防止・多世代交流・子どもの居場所作り 【イベント開催】食をベースに多世代交流イベント、生涯学習講座 【シニアのフレイル予防】介護予防プログラムの実施、他者交流 【お願い掲示板】生活の困りごとを抱えた人と、それに応えてくれ る人をつなぐマッチングシステム。わらしべ長者のように、助け合 いの輪が繋がる期待。ズボンの裾直し／電球交換／スマホの使い方 ／爪切り／料理教えて／子ども送迎／電気製品使い方 【あげます掲示板】中学高校の制服・ジャージ・教科書欲しい人／ カレンダーや引出物、買ったけど使わない物など欲しい人あげます 【お誘い掲示板】一緒に〇〇しませんか？映画や山登り、カラオ ケ、サークルのお誘いなど
提案の背景（な ぜ提案をするの	瀬谷区五貫目町は横浜市の西北端に位置し、大和市や東京都町田市 に隣接する地域で横浜市の行政サービス拠点から離れた立地にある

か、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)	以前は工業・物流の拠点であったため、近隣に地域密着の商店街や個人商店がほとんどなく、大型のスーパーやチェーンの飲食店も、徒歩で20分以上、上り坂を歩かなければならない立地で、車がないと生活が成り立たない地域である。 そのため、地域住民の少子高齢化が進むにつれ、このことが地域住民のQOLの低下、ひいては食難民に繋がってくるという課題をどうにかしたいと思い、地域住民が気軽に立ち寄り助けてと言える環境、そして助け合える拠点を地域に設立しようと考えた。 2027年に花博の開催が予定されている隣の上瀬谷町は、上瀬谷農業専用地区として農業振興地域に指定されており、横浜市内最大規模の農業エリアである。そのため、農の恵みが豊富でありその資源を最大限活用し、開設する拠点で調理して提供。瀬谷の逸品なども開発することで町興しの一端を担えたら街に活気と若返りも目指せると考えている。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	多世代交流や地域交流が盛んで、地域で子育てする街。子育てを終えた世代、シニア世代が街に楽しみや意義を見出し、活気ある街と笑顔溢れる人々の生活が実現する街。街で育った子どもたちが親になりこの街に帰ってきたいと思える街にしたい。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください)	施工関係の仕事をしている方、建築を勉強している学生、ITツールに強い学生、調理師免許をお持ちの主婦など、地域には豊富な人材資源があり、さまざまな技術・能力をお持ちの方が住んでいるので、その仲間たちと協力し合いながら良い施設ができると確信している。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください)	豊富な人材資源を活用し、それぞれの立場に立った運営が行えると考えている。隣接する上瀬谷町の農家の方とも繋がっており、地元の農産物を活かす料理を作り提供することで、地産地消にもなると考える。近接する卸本町には資材を卸している倉庫もあり、そちらとも協働してテイクアウト品の資機材を調達したいと考えている。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	レコードを持ち寄り曲をかけてエピソードを話す会や、英語の輪読会、映画を鑑賞しエピソードを話す会、詩吟の会、絵手紙の会、絵本の読み聞かせ、爺婆孫うどん作り、こんにやく作りなど様々な多世代交流イベントを開催予定。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいます。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

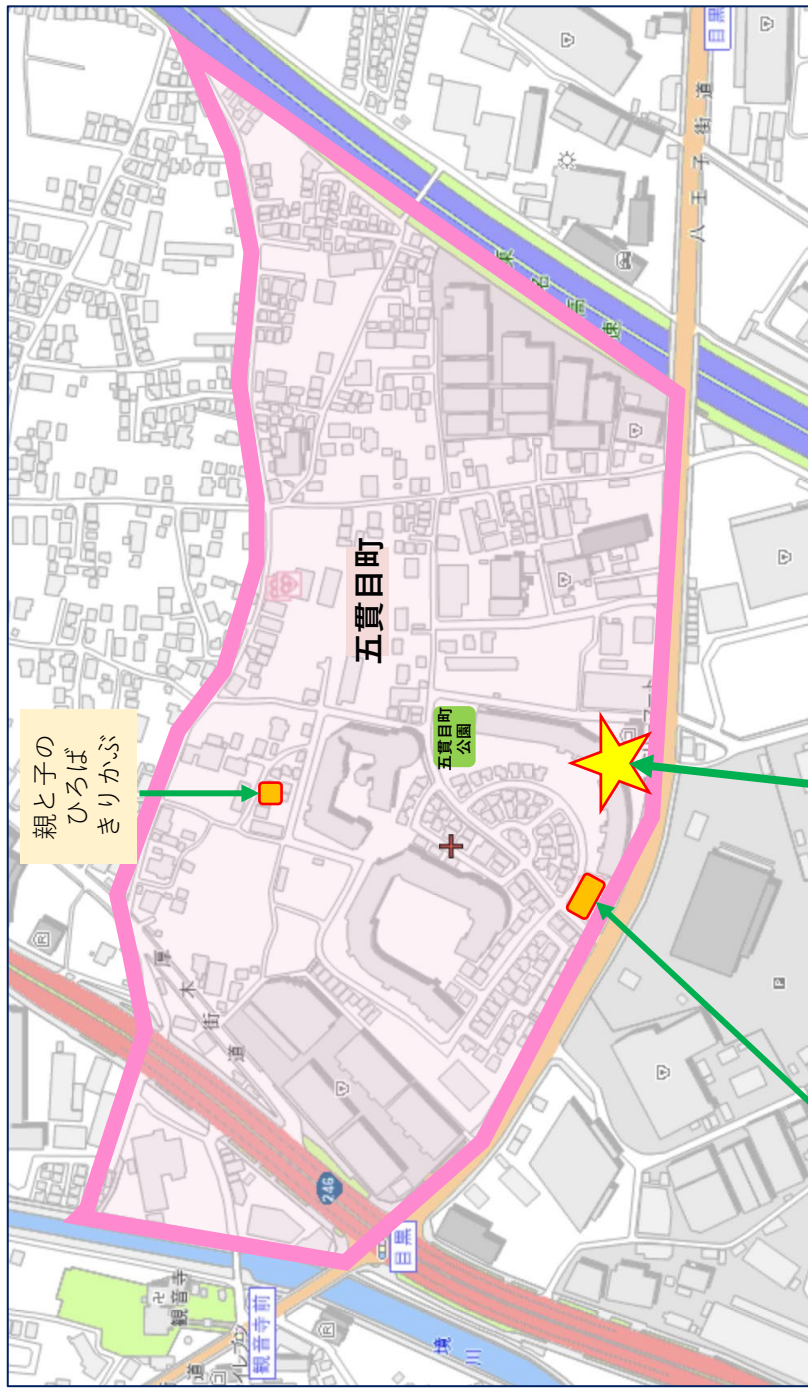
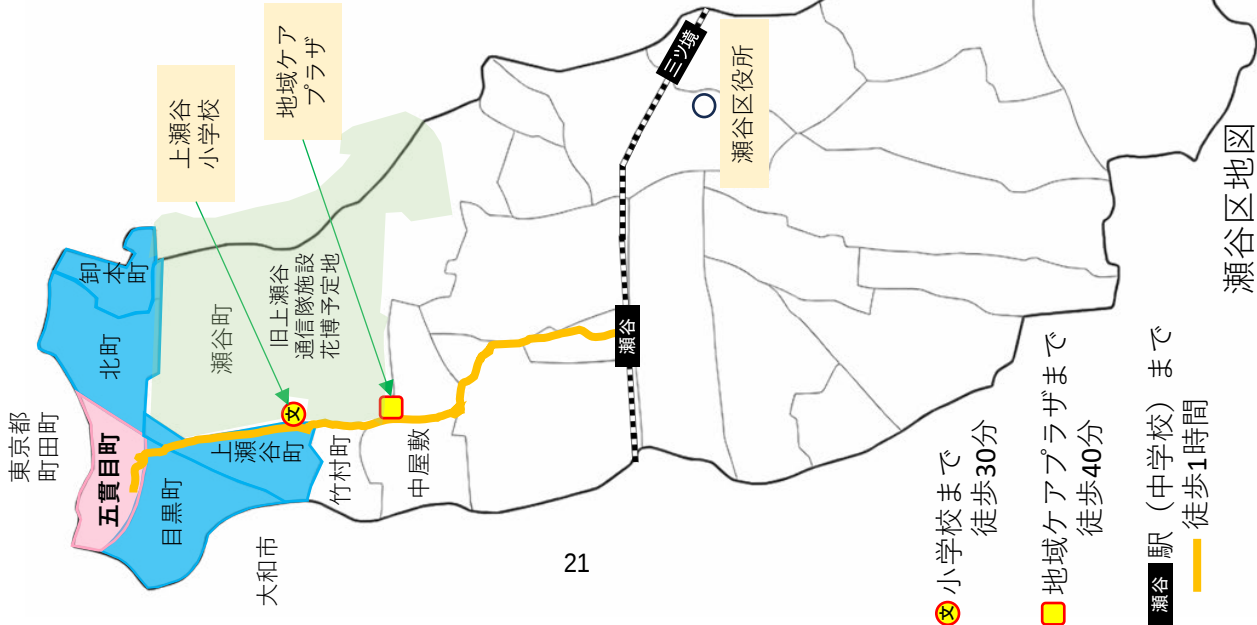
整備場所の地権者等 ^{注5} への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
マークスプリングス団地管理組合法人	説明済み

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ☒ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ☒ 第1次提案書（添付書類を含む）の内容に個人情報はありません。

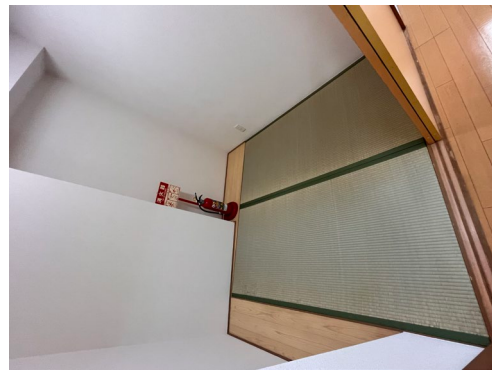
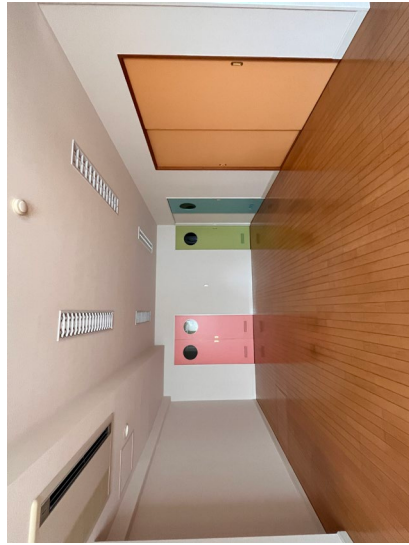
位置図



今回整備場所

1/5,000

■ 五貫目町	世帯数：約1,289世帯 人口：約2,798人
■ 北町	世帯数：約165世帯 人口：約407人
■ 目黒町	世帯数：約88世帯 人口：約353人
■ 上瀬谷町	世帯数：約1,253世帯 人口：約2,463人



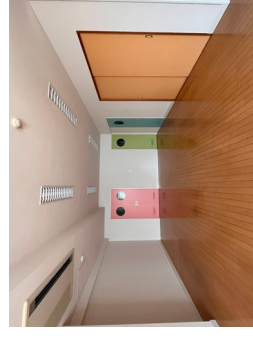
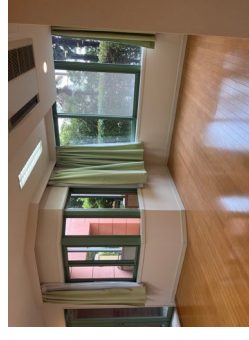
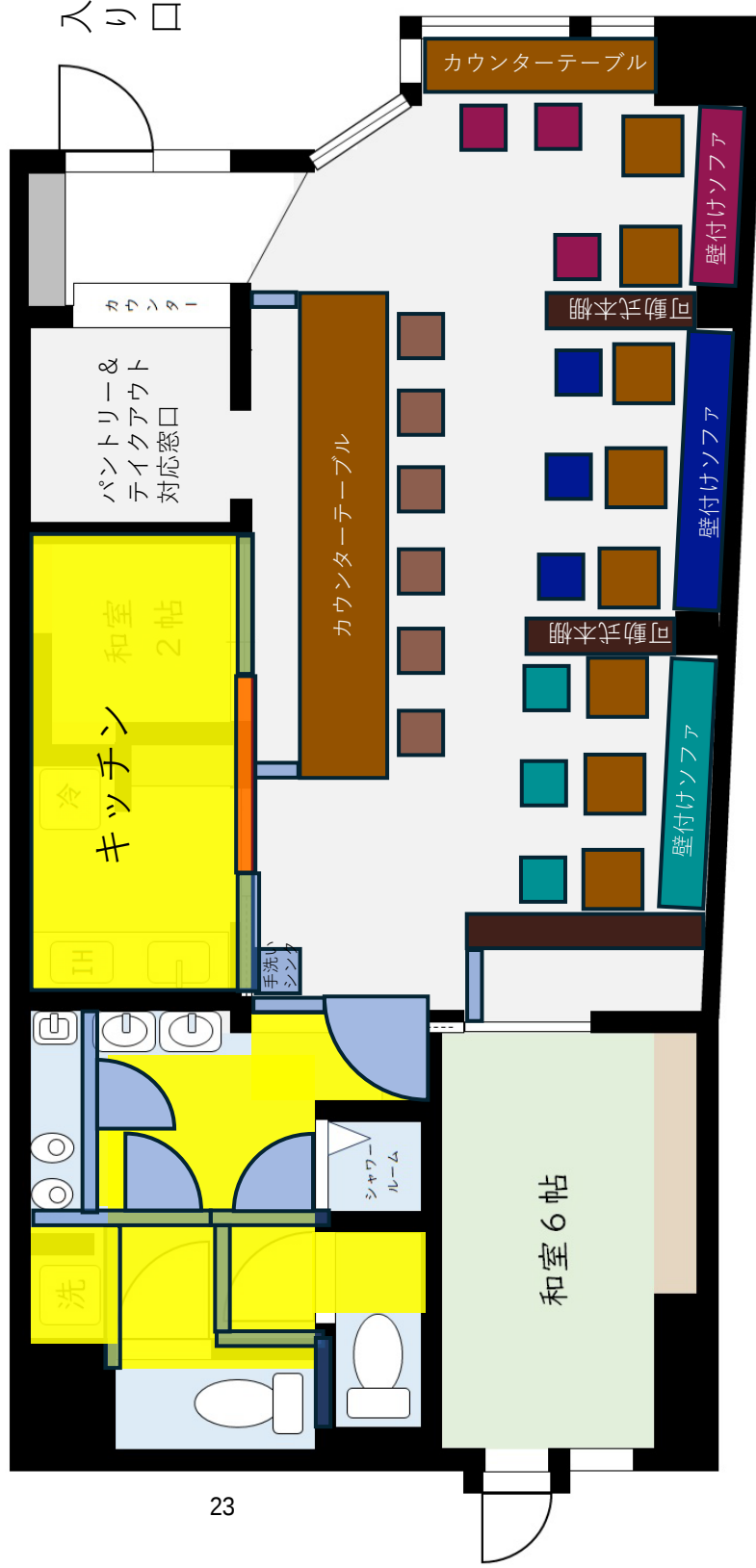
食でつながるコミュニティ拠点
ほっとスプリングス 活用イメージ

敷地面積：約87.82m²（26.5坪）
席数：23席

今回整備エリア

- 既存のキッチン+和室を
約60食分が一度に作れるキッチンへ改修。（配食15食分の調理含む+漬物と菓子の製造対応）
- トイレの入り口と個室を車椅子対応に改修+オムツ替えシート設置

- ★ サイフォン
- ★ スチームコンベクション
- ★ つながる掲示板
（ソファ席上部に設置）



これまでの個々の活動

マークスプリングス自治会



子ども向け・多世代・多文化・他地域交流イベント

マークスプリングス壮年隊



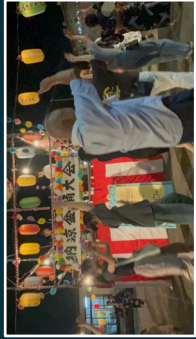
各種脳トレイベント・シニア向け交通安全や詐欺防止教室など開催

輝の杜



粕汁作り・流しそうめん

五貫目町町内会



盆踊り、ボッチャ、バスツアー

北町町内会



中屋敷地域ケアプラザ



介護予防・認知症・エンディングノートハマトレなど出前講座開催

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1）3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2）3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3）添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	桜ヶ丘 とさかのか (toSAKAanoKA)
グループ結成の 経緯・応募に至 った経緯	横須賀での空き家DIYを経て横浜保土ヶ谷へ移住。自称ADHD気質としての生き づらさを背景に、群れる集団が苦手な凸凹のある人や高齢者が、適度な距離 で緩やかにつながる自活型拠点を創るため。
現在の主な活動 内容・活動実績	横須賀での空き家改修のプロセス開示を通じた、町内会長や住民との緩やか な相互扶助コミュニティの形成。専門知（技術・情緒・経営）を記述する 「カスタムカルテ」による相談窓口の運用実績。
提案場所	横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘2丁目
提案名 (25字以内)	途中のアトリエと静かな縁側の渦のかたち
提案する施設の 概要（80字以内）	傾斜地空き家をDIY改修し、空き家相談窓口の常設、月一の「静かな図書 室」、年数回のイベントで街の人の役割（お節介）を誘発し緩やかにつながる 「現代の縁側」の創出。
具体的な整備内 容（【ハード整備】 何を整備します か。）	地域開放を行うスペースの機能維持・防犯・安全対策に補助金を集中投資。 ①【2階ベランダ外壁・防水補修（150万）】来訪者が安全に集うためのベラン ダ外壁の剥奪危険箇所補修、および着脱式看板用の下地設置。 ②【内装仕上げ・プライバシー分離可動壁（200万）】開放時、不特定多数か ら家族の私的空間を確実に分離し、安全を守る可動間仕切り壁の施工。 ③【調光ダクト照明・パブリック手洗い場（150万）】多目的な活動に対応す る調光照明、および工作・湯茶用の専用手洗い場の新設。 【自己持ち出し（想定計850万）】申請外の家具・1階生活エリア材料費、自主 設計施工の人件費等。10年かけDIYで育てます。 ※なお、法適合に関しては「その他の資料」に記載の通り、関係省庁と事前 協議を行います。 整備費用の概算額：約 500万円
活用イメージ （【ソフトの取組】 提案する施設でど のような活動を行 いますか。整備す る場所に触れて説 明してください。）	随時受付の相談窓口では、空き家相談を受けるだけでなく、住民から街のお 困りごとや地域のルール・知恵を教えてもらうことで、新参者の自分が「助 けられ、緩やかにつながる」関係性を形成。月1回は「静かな図書室」と 「自主施工の見学日」として開き、騒がしい集団が苦手な人や高齢者に「静 かな居場所」を提供。同時に改修プロセスを全開示し、地元DIY好きから助言 をもらう環境を構築。申請外1階にて年3.4回の模型ワークショップや、フェ アトレード飲食店とのイベント等を仕掛け、既存地縁も活かして住民が集ま るきっかけを作る。
提案の背景（な ぜ提案をするの か、地域のニーズ や課題、生かした い地域の魅力等に	横浜の傾斜地が抱える接道不良や急傾斜による空き家放置リスクは、ここ保 土ヶ谷の住宅地にとっても対岸の火事ではありません。しかし、桜ヶ丘には 今も静かで寛容な、大変心地よい空気感が奇跡的に残っています。この美德 を未来へ繋ぐためにも、既存の賑やかなコミュニティに馴染むのが苦手な、 自称ADHD気質を持つ私のような凸凹のある人々が、街の調和を乱さずにそっ

触れて説明してください)	と最適化していける「静かな選択肢」が必要です。 新参者である私がこの街のルールや知恵を学び、馴染むためにも、まずは正直に不完全さを開示し、「助けてもらう」ことで関わり代を作りたい。大きな集団とは適度な距離を保ちつつ、建築士の職能を活かして街へ恩返しをしながら、新たな緩やかなつながりのレイヤーをそっと重ねます。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	密な運命共同体ではなく、個人の尊厳を守る「適切な距離感（ハーフ・パブリック）」が育まれた地域。昭和の家が襖を開け放ち私を公へと変容させたような、空間の「しつらい」を現代に再解釈し、街と柔軟に接続します。 「完璧な管理者」が住民を一方的に支援するのではなく、管理人の不完全さ（凸凹）を開示する「フック」をちりばめ、周囲の住民が「お節介」として不定期に立ち寄れる弾力的な関係性の器を創ります。この場を、既存の町内会や地縁組織の下へ「そっと重ね合わせる」ことで、双方が固有の立場を保ったまま無理なく補完し合える自治の土台を構築。アメーバのように緩やかに交差する「風通しの良い寛容な地域社会」を保土ヶ谷から実装します。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください	横須賀の空き家改修で培った、お節介を誘発する協働モデルを保土ヶ谷に還流させます。プロセスを正直に全開示し、地元のDIY好きからアドバイスをもらったり、庭木剪定が得意な住民が手伝いに来たり、町内会長が来客を誇らしげに案内するような、主体的で愛のある「お節介の生態系」を編み上げます。同時に、設計者やITアーキテクトらの専門知も還流。全員が一堂に集まり義務的に労働する昭和型ではなく、各アクターが都合の良いタイミングで非同期に関わる「見守り型普請」を構築します。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください	この地域の地勢（階段道路、傾斜地）は、土砂災害や空き家放置のリスクを内包しています。私達が開発する専門知の記述システムを活用し、住民と対話しつつ空き家をカルテ化していくプロセス自体を、地域の対話と接触のきっかけとして機能させます。月1回の開放日に賛同し、自ら役割を見つけてくれた手伝い手や地域住民には、信頼関係に基づき不定期に立ち寄れる「ハーフ・パブリックな縁側」として場を共有。既存の町内会とも、建築士の職能を通じた適度な距離感を保ちながら、挨拶や相談の受け皿として既存の地縁組織の下へそっと重ね合わせ、並走・並立する持続可能なパートナーシップを構築します。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	地域拠点の維持における最大の課題は、数年後の運営費枯渇と、労働の義務化による住民の負担増です。本提案は、平日は一級建築士事務所として稼働し、維持管理費や光熱水費を100%自己の経営体力でカバーすることで公的補助に一切頼らず、整備された空間を10年間確実に地域へ還元し続けます。また、失敗や迷いのプロセスを正直に開示して周囲の「お節介」を誘発する設計は、横須賀にて町内会長を巻き込み良好な関係を築いた実証済みのシステムです。公金を1円も維持費に依存せず、専門職の自活基盤、生きづらさを抱える人の居場所、既存の地縁が適度な距離感で共存する、持続可能な持込型インフラとして機能させます。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

整備場所の地権者等 ^{注5} への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地・建物所有者	メンバー自身が所有

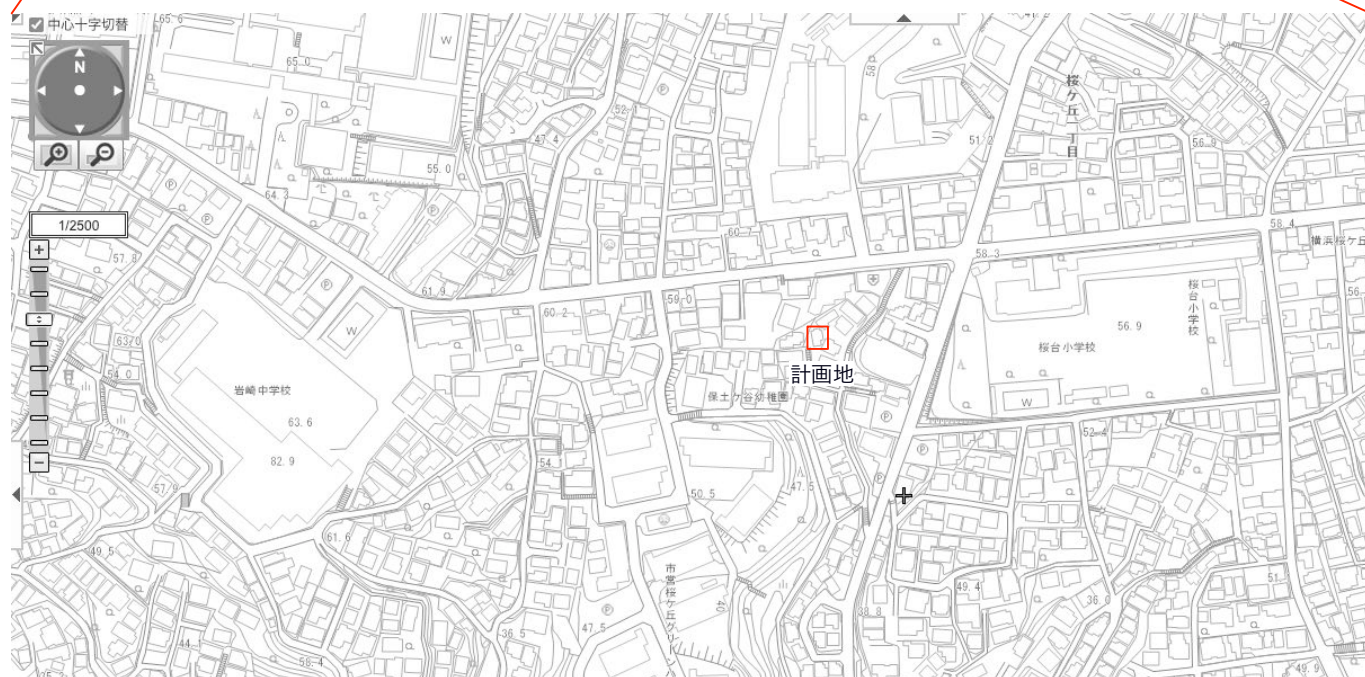
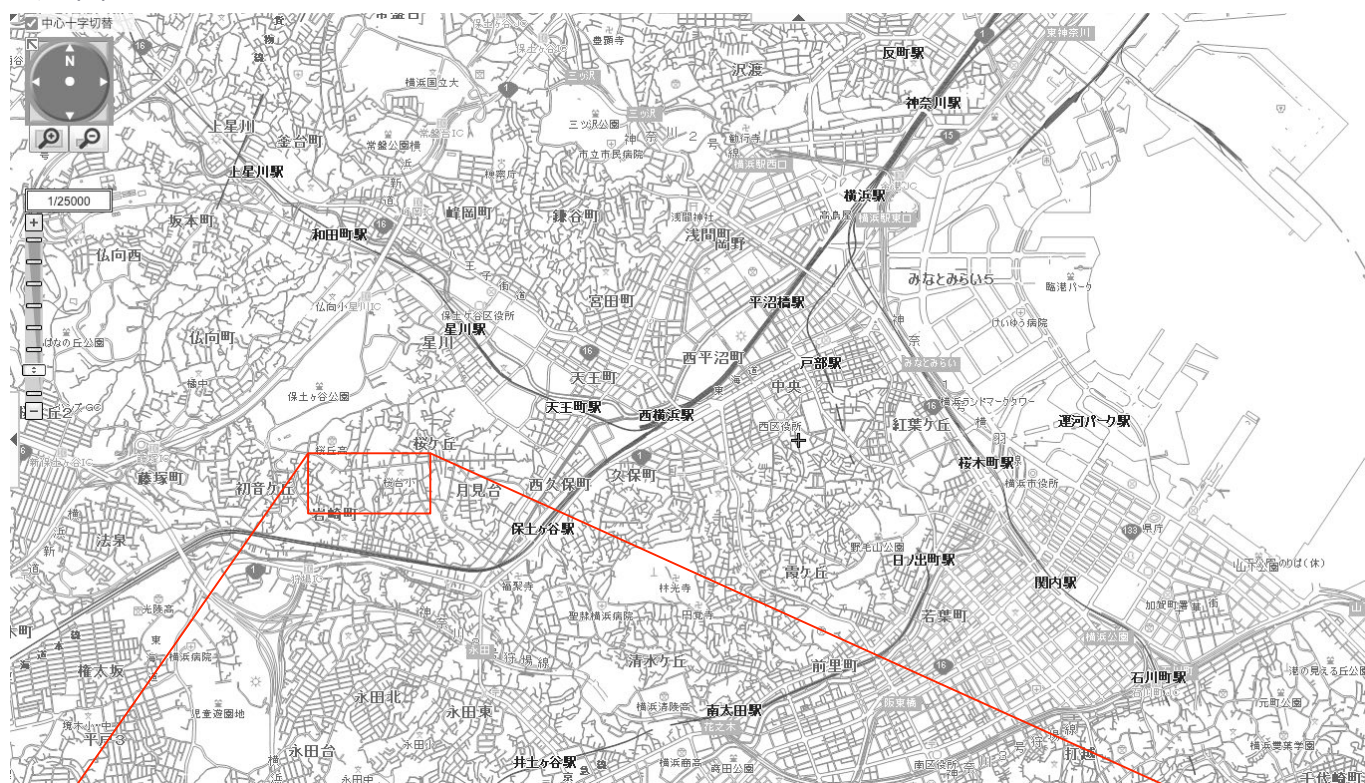
注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ☒ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ☒ 第1次提案書（添付書類を含む）の内容に個人情報はありません。

位置図（広域・詳細）

広域図



詳細図

※出典：横浜市行政地図情報提供システム iマッピー

桜ヶ丘 とさかのか (toSAKAnoKA)

現況写真



ヨコハマ市民まち普請事業：活用イメージ図

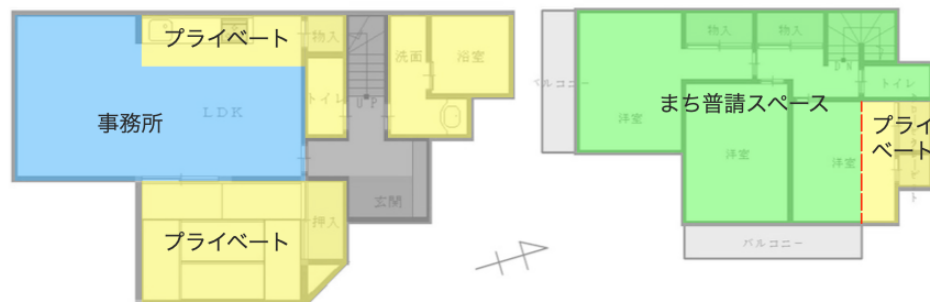
提案名：『途中のアトリエと静かな縁側の渦のかたち』

提案グループ名：桜ヶ丘 とさかのか (toSAKAAnoKA)

■ 1. 通常時と開放日の空間使い分け（平面・階層ゾーニング）

日常と活動日の空間をスマートに可変させることで、家族のプライバシーを侵害せず、不特定多数および地域住民と適切な距離感（ハーフ・パブリック）で接続・共生する設計モデルを確立します。

■ 開放日（まち普請活動時）



1階：事務所エリアと家庭エリア(申請外)

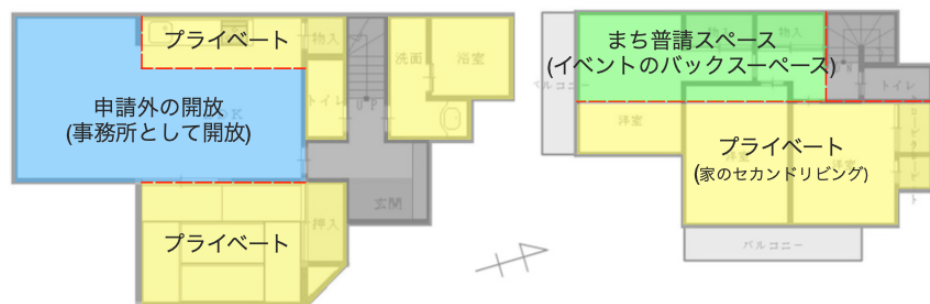
事務所とダイニング等住宅部分の間に、プライベート保護のための可動壁を一時設置（申請外工事）。ダイニング+和室の寝室（家族の生活空間）は立ち入り不可。

2階：まち普請スペースとして、地域開放。

「静かな図書スペース」「工作ワークショップスペース」として開放。

開放エリア内に、家庭のプライベートスペース（一部生活スペース+荷物隠すための可動壁）を設置し、完全な私的空間を分離。

■ 年に数回の開放日（申請外イベント時）



※不特定多数を呼ぶ場合、または住宅で行うと建築基準法等の指導対象になり得るイベント用途の場合。

1階：事務所スペースを申請外開放。

本工事申請には含まないが、まち普請事業への「越境的な地域貢献スペース（アトリエ見学会・技術公開等）」として一時的に活用。

住宅部分との境界にはパーティション（申請外）を設置し、ダイニング+和室の寝室（住宅エリア）は完全に遮断。

2階：プライベートとバックヤード

家のセカンドリビングと、イベント時のバックヤードとして使用。

※まち普請スペースにおいて、プライバシーを守る可動壁や外壁サインベース等、パブリックを開くからこそ不可欠なハードに補助金を集中させる。

■ 2. 「桜ヶ丘 とさかのか」 10年間の段階的 DIY ロードマップ（プロセスの開示）

PHASE 1

1年目

インフラの確立と関係性の土台づくり

- ・【100%補助申請】
可動式間仕切り、調光付照明設備、防犯・安全（手洗い・ベランダ防水）設備の施工完了。
- ・【申請外】
平日の建築士事務所としての自活スタート。
- ・改修プロセスの開示を見てもいいながら、地域のお困りごとや知恵、既存のルールを傾聴。
- ・地元のDIY好きから、お節介（我慢やアドバイス）をもらう、お互いさまの関係構築。

※補助金を活用した初期インフラ施工と対話の土壌づくり

PHASE 2

2～3年目

地域開放のスタートと関わり代（フック）の拡大

- ・工事が終わった2年目より、月1回の「静かな図書室」や「ワークショップ」等の地域開放を本格スタート。
- ・「カスタムカルテ」を用いた、斜面地空き家の相談・カルテ化受付。

★完成したインフラを活用した本格的なコミュニティ開放

PHASE 3

4～10年目

アメーバ的なレイヤーの重ね合わせと、寛容な社会の実装

- ・模型ワークショップや、市内のフェアトレード飲食店とのコラボを定期開催。
- ・集まったお節介や関わり代をフックに、残る未改修エリアを住民と共にDIYで段階的拡張。
- ・既存の町内会や地縁の下へ、この緩やかなつながりのレイヤーをそっと重ね合わせ、並走・共存させる。

★10年をかけて育む、緩やかで完成なき commons の形成

■ 3. 「渦のかたち」のcommons：集まり方のグラデーション

- [外渦：月1回] 2階一般開放（静かな図書室・ワークショップ等）、1階事務所（不特定多数OK）
- [内渦：不定期] DIY 施工中の見学日（予約制や知人となった「友達」限定のハーフ・パブリック空間。住宅部分への不特定多数の立ち入りを防止）
- [中心：平日] 1階 SOHO 事務所実務（固定費自活）および家族の日常生活空間

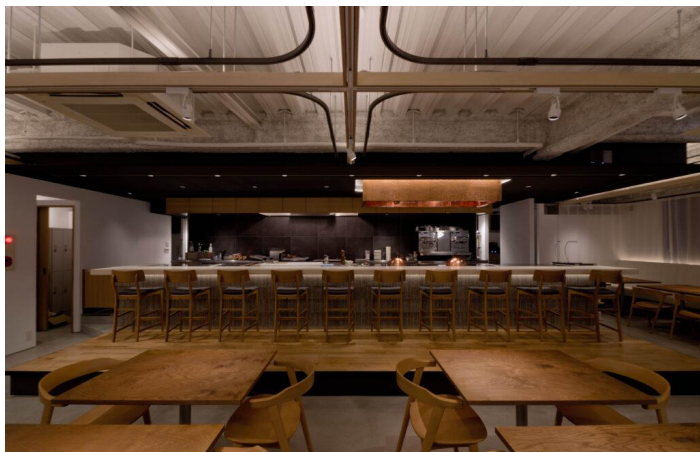
ヨコハマ市民まち普請事業：その他の資料

提案名：『途中のアトリエと静かな縁側の渦のかたち』

提案グループ名：桜ヶ丘 とさかのか (toSAKAAnoKA)

■ 1. 設計・施工実績

以下は、代表者（一級建築士）がこれまでに手がけた内装、および先行する「横須賀フナコシアトリエ実験場」の実践写真です。自主施工であっても、プロの監理のもとで高い安全性と意匠性を両立したハード整備を行います。



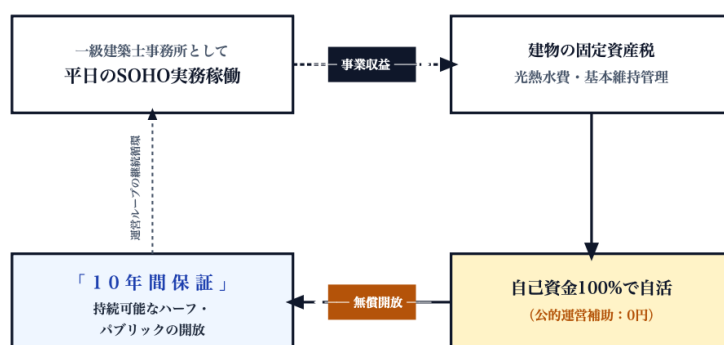
内装設計 参考例



フナコシアトリエの改修途中の経過展示

■ 2. 「営公連携（タイムシェア）型」の自活収支・運用サイクル図

公的助成金をランニングコスト（維持管理費・水道光熱費）に1円も依存させない、持続可能な自営経済の仕組みです。平日の建築実務による売上から、パブリック空間の「使用料」として個人の家計へ資金を補填・充当し、それによって住宅全体の固定費を安定して支えることで、月1回の「静かな図書室」や「自主施工見学日」を10年間、家族に経済的負担をかけることなく確実に地域へ無償還元します。



■ 3. 技術的・法的適合性の事前検証（事前協議事項）

本提案の実施設計および施工・運用に際しては、建築士の専門知識と職能に基づき、関係省庁および事務局と事前に以下のすり合わせを行い、確実な法的適合を担保します。

① 事務局指定の「対象範囲」および「営利・法人活動」の物理的な空間分離

- 普請事業申請エリア（2階パブリック空間）からは、営利目的の個人事業主や法人事務所（1階）や、全国への貢献を意図したNPO法人活動（将来計画）と、空間・動線を明確に切り分けて物理的に分離して運用します。

② 兼用住宅としての法適合（建築基準法上のすり合わせ）

- 実施設計に入る前に、1階（事務所・生活スペース）および2階（住宅セカンドリビング・まち普請スペース）の全体構成が、兼用住宅（建築基準法第48条、令第130条の3）の要件（住宅の割合1/2以上など）として適正に適合するかどうか、「第48条ただし書き」等の適用も含めて、特定行政庁等の関係省庁と事前に綿密な事前協議を行います。
- 万が一、兼用住宅としての成立が法的に困難と判断された場合は、速やかに部分的な事務所兼用への切り替えも含めて、行政・事務局と柔軟な修正・代替案のすり合わせを行います。

③ 自宅エリアへの部外者立ち入りに関する法的確認

- 不特定多数の立ち入りが認められない住宅用途部分（1階リビング等）のDIY見学プロセスにおいては、一般公開（不特定多数）ではなく、完全な「予約制」や、すでに対話を重ね信頼のおける知人となった「友達（近隣住民等）」の立ち入りに限定する運営ルールとし、住居としての法的な定義および防犯上の安全性を厳格に担保します。

④ 構造・耐震面の詳細な安全検証

2階アトリエの開放、間仕切りの造作、可動壁の設置計画に伴い、既存の軸組および耐震壁の位置を詳細に調査。2階の耐震安全性を損なうことのないよう、構造壁・柱の位置を精密に特定し、必要十分な補強計画を含めた設計検証を施工前に並行して実施します。

ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	空ちゃ別館づくり隊
グループ結成の 経緯・応募に至 った経緯	提案グループの代表者は、整備予定地の隣接地において地域の学びのサークル活動や教室運営、飲食店営業や菓子製造業の場として利用できる伴走支援型レンタルスペース「空吹きチャーリー亭（通称：空ちゃ）」を運営しています。現在は、30代～50代の女性層を中心に毎月多くの利用者が利用している状況ですが、既存利用者との対話の中で、若者世代の居場所と自己実現の場についても一定のニーズがあることが確認できたため、既存施設の隣接地において、空ちゃ別館を整備するため応募します。
現在の主な活動 内容・活動実績	空ちゃの運営において、既存利用者の潜在的ニーズのヒアリングを定期的に行っています。
提案場所	港北区大曽根一丁目
提案名 (25字以内)	若者の居場所&商店街活性化新拠点ー空ちゃ別館整備ー
提案する施設の 概要（80字以内）	若者の居場所として、ラウンジ、楽器練習ブース、自習室及びフォトスタジオを備え、隣接する大曽根商店街の活性化につなげるための宿泊施設を備えた複合施設を整備します。
具体的な整備内 容（【ハード整備】 何を整備します か。）	更地の土地に、1階RC造、2～R階が木造の混構造複合用途施設を新築します。用途構成としては、1階：ラウンジ・楽器練習ブース、2階：自習室、3階：宿泊施設、R階：フォトスタジオを想定しています。整備予定地の土地は、代表者が運営する法人所有地であり、建築費のうち躯体費用の工事費は、同法人で負担整備します。まち普請事業の補助金の使途においては、設計費、躯体工事以外の内装設備等の工事費及び工事監理費の一部に適用します。 整備費用の概算額：約 500万円
活用イメージ （【ソフトの取組】 提案する施設でど のような活動を行 いますか。整備す る場所に触れて説 明してください。）	①地域の中で、吹奏楽部等の部員や音楽を趣味でやっている方で、楽器の練習場所に困っている若者等に対して、楽器練習環境を提供します。 ②自宅に勉強場所がなく、勉強難民となっている若者等に対して、自宅以外の勉強場所としての会員制の自習室を提供します。 ③飲食も可能な交流ラウンジを1階に整備し、地域内の顔の見える関係の醸成と学校外での若者等の居場所と友達づくりの環境を提供します。 ④若者等の自己実現ツールとして一般化しているSNS等で自身の趣味等を発信するための写真や動画の撮影が可能な屋上フォトスタジオを整備します。 ⑤宿泊施設（簡易宿泊所として旅館業の営業許可を取得します）を併設し、横浜アリーナ等に来場する地域外の若者客を誘致し、宿泊者に大曽根商店街のマップや提携店舗のお得情報等を新たなマップやHPを制作して周知することで、商店街の活性化につなげていきます。 ⑥施設全般の運営において、対人接触の度合いにバリエーションがある短時間での働く場を提供（有償ボランティアを想定）し、地域内で不登校となっている若者等が緩やかに社会参画する仕組みを構築します。

提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	横浜市においては、小学生・中学生において年々不登校の児童が増加しており、加えてその子ども達は前年度からの継続不登校の割合が高く、学校を含めた社会への復帰がしにくい社会構造になっている現状があります。 横浜市においては、若者向けの居場所となる公共施設の整備を進めていますが、社会経済活動と接点のある民間事業としての有償サービスでの若者向けの居場所施設は、公共施設とは別に社会的に必要な施設と考えます。 本事業による整備施設は、不登校の子ども達を含めた若者等の自己実現や学習環境及び社会経済活動に触れる接点となる環境を提供します。 また一方、駅から離れた地域密着型の小規模商店街は、徒歩圏での生鮮食品等の身近な購入場所や銭湯などのサービス施設の立地場所として依然重要な役割を担っていますが、年々店舗が閉店し、住宅用途に転換が進んでおり、整備予定地も元お肉屋さんの閉店後の土地となります。 そのような中、商店街としての魅力発信や新規外部客の誘致などを既存店舗の皆様だけで実施することが次第に困難な状況になってきています。 整備する施設運営では、商店街のエリアマネジメント機能を一部代行し、宿泊施設の運営を通じて新規外部客の誘致と商店街の魅力発信を行います。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	居場所や自己実現を求める若者達に、交流や学習の場、楽器練習や写真・動画撮影環境を提供するとともに、無理のない働く場を提供することで、不登校の若者等の緩やかな社会復帰の場を提供し、既存の空ちやの利用層と併せて、多世代地域コミュニティ活動拠点がある地域を目指します。 また、宿泊施設を通じて地域外から若者を招き、商店街の魅力発信と購買活動を促進させることで、商店街の再生を目指します。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください	楽器練習ブースについては、地域内で既に音楽教室を運営している方やミュージシャンと連携し、練習環境の設備要件を精査します。 自習室については、地域内にお住まいの受験生やその親等にヒアリングして、ニーズを踏まえた理想的な学習環境を提供します。 フォトスタジオについては、地域内で活動しているカメラマンと提携し、撮影環境の設備要件のアドバイスをもらいます。
運営時の協働（運営するときに関連する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください	楽器練習ブースについては、地域内の既存音楽教室と提携し、楽器練習環境に困っている子ども・若者達に周知し、利用促進を図るとともに、個別レッスンの場としての利用も提携していきます。 フォトスタジオについては、地域内で活動しているカメラマンと提携し、撮影場所としての利用も提携していきます。 宿泊施設の運用による商店街の魅力発信と販売促進については、大曽根商店街内の若手経営者達と連携し、最適な方法を検討します。 施設全体の運用については、市内で不登校の子どもや若者の働く場の提供活動をしている方と連携し、受け皿の一つとなるよう運用していきます。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください	整備場所の地権者法人の代表が、提案グループのメンバーとなっていますので、実現性が極めて高い計画となります。

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいます。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

整備場所の地権者等 ^{注5} への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
土地所有者（提案グループに参加）	整備内容に全面的に同意しています。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ☒ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ☒ 第1次提案書（添付書類を含む）の内容に個人情報はありません。



※既存の地域交流施設とは、運営者間で相互交流があり、利用者も目的に応じて相互に各施設を利用していることから、本件整備により大倉山駅周辺の地域コミュニティがさらに活性化することが期待できます。

拡大図 1/1500

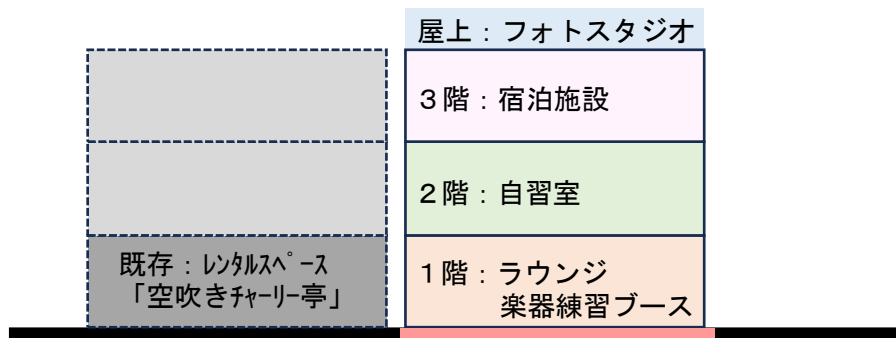


現況写真



活用イメージ図

以下の5種類の用途を複合した多目的施設（想定延床面積：約100㎡）を既存レンタルスペース「空吹きチャーリー亭（空ちゃ）」の別館として新築します。



【整備予定地概要】敷地面積：46.28㎡、用途地域：近隣商業地域、
建蔽率/容積率：80/200、接続道路：南側公道（2項道路）

R階：フォトスタジオイメージ



3階：宿泊施設イメージ



2階：自習室イメージ



1階：楽器練習ブースイメージ



その他資料【空吹きチャーリー亭の概要】



空吹きチャーリー亭は、地域内の学びの場をテーマとしたレンタルスペースです。サークル活動や教室運営、飲食店営業及び菓子製造業などの様々な利用目的での使用が可能で、活動の伴走型支援も実施しています。これまで利用実績の一例は次のとおり。

① 空ちゃ読書部



② ｼﾞｬﾝｸｾﾘｰ-制作教室



③ チラシ作り講座



④ 大曾根ハロウィン



⑤ ライブラリーカフェ



⑥ 子どもカレー食堂



施設面積：30.55㎡

収容人数：13席程度

取得許可：飲食店営業許可

菓子製造業許可

製茶業、弁当業等

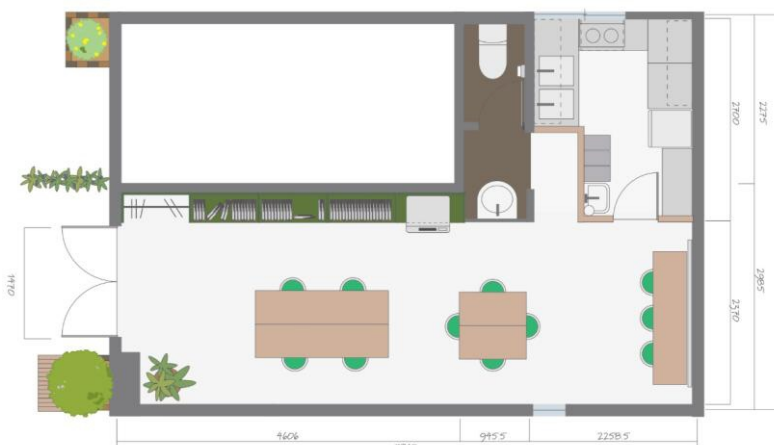
主な備品：ロールスクリーン

4Kプロジェクター

プリンターA3対応

オープンレンジ

FreeWifi等



ヨコハマ市民まち普請事業

第1次提案書

注1）3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2）3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3）添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	さわやか港南
グループ結成の 経緯・応募に至 った経緯	2001年から、見守り活動を実施。2006年にはまち普請で、車いす使用者のためのリフト設置と相談ルームを増設し、その後も地域で在宅支援サービスを中心に活動を広げてきた。 今回、活動拠点として25年間お借りしていた家が、家主の方が亡くなったことで処分されることになった。これまでの活動を絶やさないためにも、新たな場所で気分も一新し、再出発したいと思い、まち普請に応募した。
現在の主な活動 内容・活動実績	2001年から、「困ったときはお互い様」という助け合いの精神で会員相互にサポートしあう「有償サービス」や、だれもが集える「地域の居場所づくり」に取り組んでいる。また、もっと拠点が欲しいという思いから、13年ほど前からお寺の敷地で毎月3回茶店を運営しており、近隣住民の交流の場となっている。 近年は、地域ニーズにも対応し、不登校・ひきこもりの支援活動や配食サービスにも取り組んでいる。
提案場所	港南区日限山一丁目
提案名 (25字以内)	つながりみまもる広場
提案する施設の 概要（80字以内）	多世代の人たちがともに暮らしていくための温かい心のよりどころとなる地域拠点の整備
具体的な整備内 容（【ハード整備】 何を整備します か。）	<茶屋（居場所・配食サービス） 位置図①> ・キッチン整備・クーラーの取り付け <相談受付・事務所 位置図②> ・シャッター取り替え ・基礎修繕、コンセントの取り付け等 整備費用の概算額：約 500 万円
活 用 イ メ ー ジ （【ソフトの取組】 提案する施設でど のような活動を行 いますか。整備す る場所に触れて説 明してください。）	・地域の見守り活動 ・地域のよろず相談所 ・不登校・ひきこもりの支援 ・配食サービス ・多世代が集える食堂 ・地域イベントへ提供する料理の下準備など 事務仕事及び温かい心のよりどころとなるまちの拠点、皆さんが安心で安全な場所としての機能を持たせたい。

提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	まち普請で拠点の整備をしたことにより、相談件数が増え活動が広がった。公的資金が入ることで、安心できる場所になり、子どもから大人まで立ち寄る場所になった。一方、日限山地区では高齢者の数は年々増加しており、一部の地域では高齢化率が40%を超えている。そのうち虚弱・障害等の歩行困難者も多く、地域の見守り活動は非常に重要な活動となっている。また、防災に関しても、いろいろな備蓄ができるようになり安心材料が増えたが、災害の多い日本で、一人一人がしっかり命を守る意識を身に着けることも重要である。これまで培ってきたネットワークを生かして、コミュニケーションを強化し、災害時に助け合えるようにしたい。また、提案場所の整備を行うことで、炊き出しなど地域の防災拠点としても利用できるようになる。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	おたがい声をかけられ、資格をもたない人でも日常・災害時に助け合い活動ができる町にしていきたい。助け合い活動が持続することで、この地域で年を重ねることに安心感を持ち、地域で過ごすことが楽しみになる町を目指していきたい。
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください）	・地域の中には、いろいろな資格を持っている方がおり、整備に協力をいただけるかお声がけをする。 ・備品は、地域の人からの寄付を募る。
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源 ^{注4} ）に触れて説明してください）	・地域の福祉系の団体や社協などと連携している。
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	長年、地域の交流の場を運営してきた実績があります。地域のコミュニティづくりに終わりはありません。私たちの行っている活動が長く続くことで、ここで育つ子どもや子育て世代（現役世代）にも存在を知ってもらい、この地域で年を重ねても安心して楽しみだと思ってもらいたいと思っています。古くなった場所を整備することで新たな担い手のやりたいことの実現にもつながると考えています。

注4）「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいます。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

整備場所の地権者等 ^{注5} への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
建物の所有者	説明済み

注5）土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- ☒ 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- ☒ 第1次提案書（添付書類を含む）の内容に個人情報はありません。

位置図



(出典：横浜市 i-マップピー)

現況写真

○茶屋(居場所・配食サービス)



○相談受付・事務所機能の場

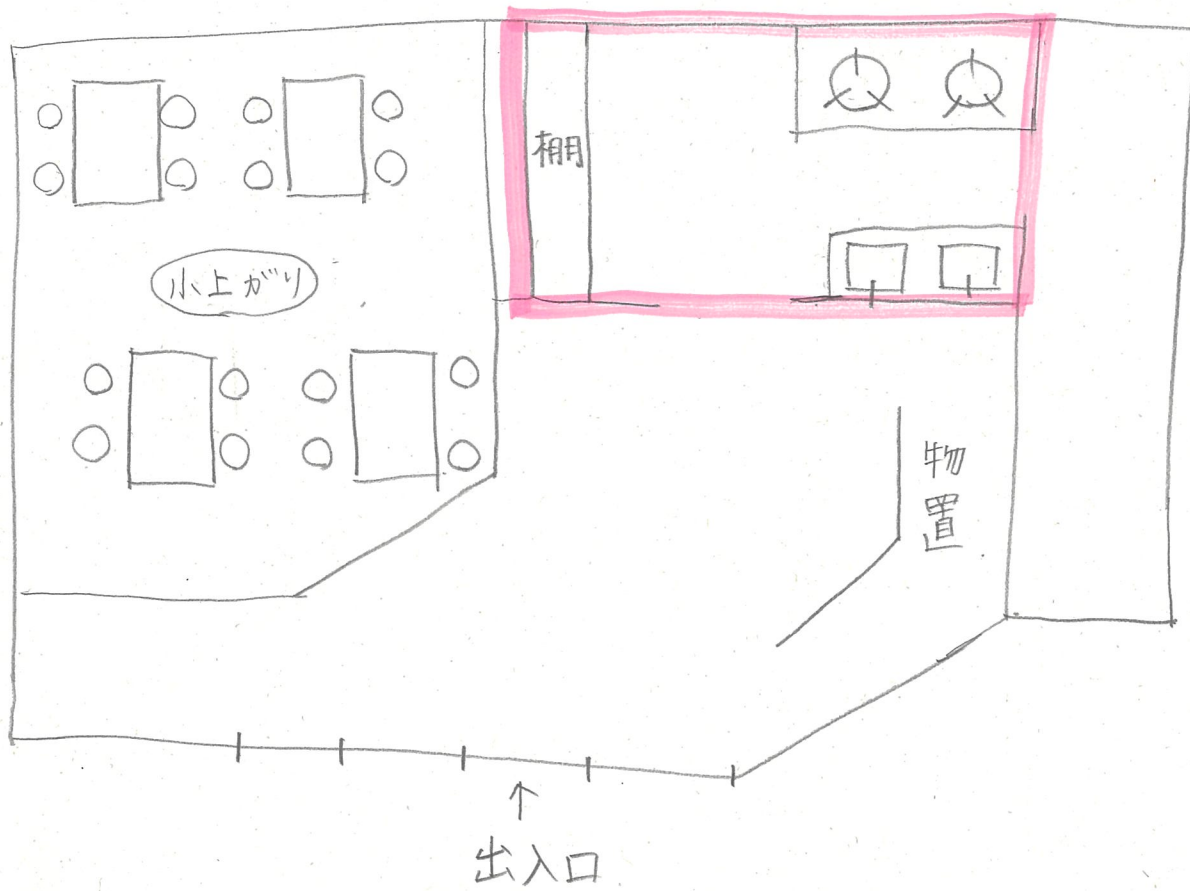


利用者が安全・安心に利用できるためのシャッター取り換え

①茶屋（居場所・配食サービス）の整備

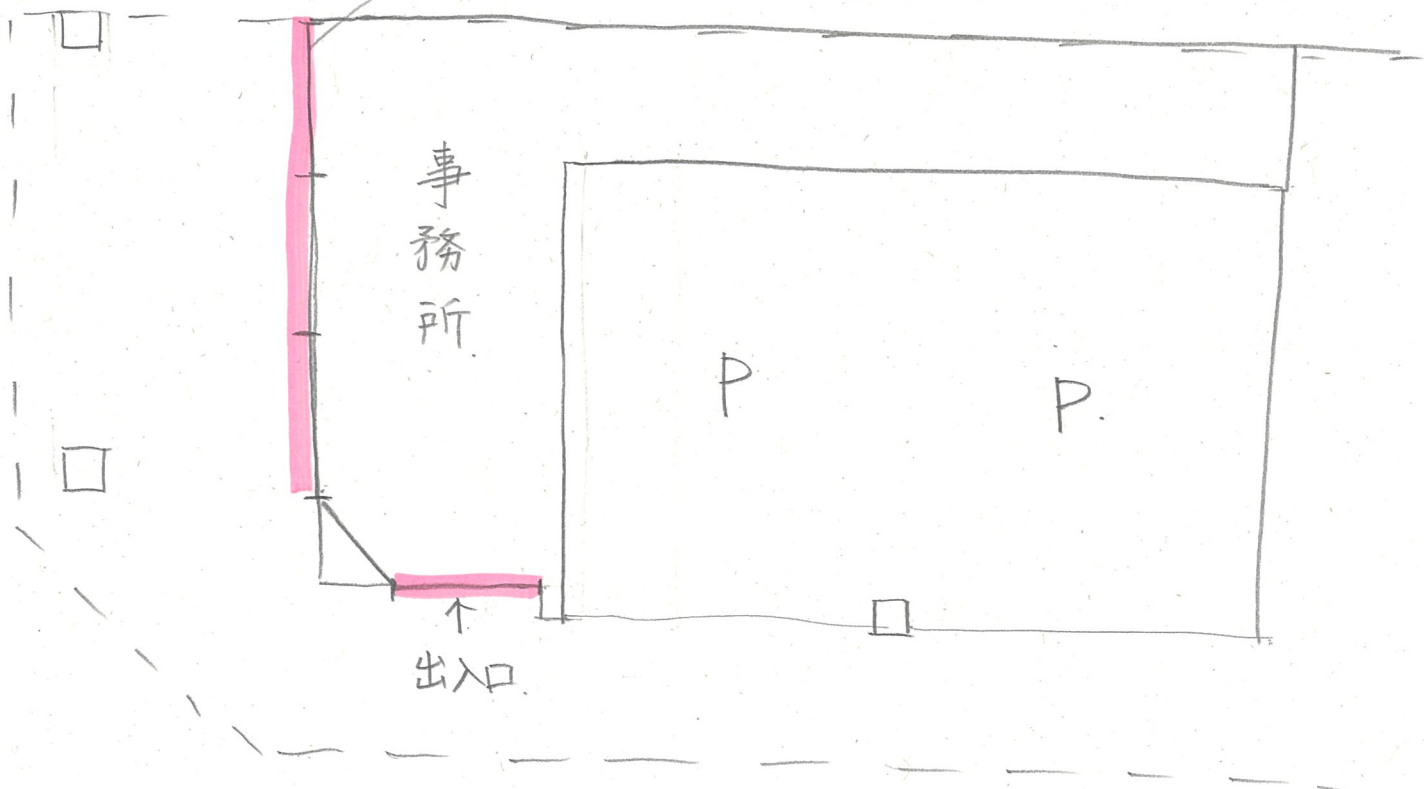
・流し台を広く

キッチンの整備 ・冷暖房設備の設置



②相談受付・事務所機能の場の整備

シャッターの修繕



さわやか港南 主な活動

1. 有償サービス

港南区やその近隣区において『困ったときはお互いさま』という助け合いの精神で会員相互にサポートし合う「有償サービス」を実施

- ・在宅支援サービス（家事援助、病院などの付き添いなど）
- ・子育て支援サービス（送迎、託児、産前産後のお世話など）
- ・部屋の貸出し
- ・その他、日常生活のサポート（ペットの世話、大工仕事など）



配食サービスお弁当(毎週水曜実施)

2. 地域の居場所

地域のたまり場、お茶の間として、子どもから高齢者までの人達が世代を越えて交流できるスペースを設け、各種事業（イベント・講座等）を実施

〈主な事業〉

- ・学校以外に居場所を求める子ども達の居場所・交流場所として、学習サポートや課外学習
- ・放課後、ボランティアによる学校の宿題などの学習サポート
- ・障害者を対象に、各種レクリエーションなどの交流事業
- ・そのほかイベントやサークル活動等
- ・日限地藏尊境内で地域の居場所として茶店を運営(月3回)



子どもの居場所



日限地藏尊境内で茶店を運営



大人向けの講座

3. よろず相談所

地域の人々が、気楽に立ち寄り、日常生活でちょっと困った時に相談することができる場所。相談内容に応じ、さわやか港南が実施する「有償サービス」のほか、区役所などの行う「公的サービス」や民間団体が行うサービスへの紹介・調整を実施

メールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みますか？

市民が身近なまちづくりに取り組むときに役立つ制度や地域のまちづくり活動の紹介、地域まちづくりに関するイベントや講座等に関するお知らせなどを提供する、無料のメールマガジンを读みますか？ 配信申し込みは、下記の2次元コードからお願いします。



ヨコハマ 人・まち
メルマガ案内

地域まちづくり課 “公認” のFacebook

「ヨコハマ市民まち普請ひろば」



まち普請ひろば

Facebookに登録していなくても誰でも見られます。

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね！」を宜しくお願いします。

(Facebookは協働事務局の横浜市住宅供給公社が運営しています)

自ら主体となって、身近なまちの課題を解決したい、あるいは魅力を高めたいと考えている方や、身近なまちの施設等の整備アイデアをお持ちの方は、年間を通じていつでも相談窓口を開設していますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【相談・お問い合わせ先】

横浜市都市整備局地域まちづくり課

(横浜市中区本町6丁目50番地の10 市庁舎22階)

電話 045-671-2679 E-mail: tb-seibiteian@city.yokohama.lg.jp



令和8年度ヨコハマ市民まち普請事業 応援企業のみなさま



まち普請事業は、市民主体のまちづくりの支援を通じてSDGsの目標達成を目指す事業です。SDGs推進に精力的に取り組む以下の企業の皆様からの応援をいただいています。

